

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出会いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

総合印刷物企画・プランニング・デザイン・印刷・加工・
オンデマンドデジタル印刷・デジタルメディア企画制作



半田中央印刷株式会社

〒475-0032 半田市潮干町1番地の21
TEL <0569> 29-2525 (代) FAX <0569> 29-4500
E-mail: main@handa-cp.co.jp <http://www.handa-cp.co.jp>

元気のでてくる“ことばたち”

175

村上信夫

撮影・鶴崎 燃



しに行つたとき、父が骨壺にすがつて号泣したことがあった。「父の涙を見たのは最初で最後だったけど、その姿を見たときから兄の代わりとして生きていかなくはならぬ」と思うようになった。

事態は大きく変わった。最後、父は、リンパが腫れて声が出なくなっていた。普通は感傷的な場面となるはずなのに、父にかけた言葉は必要に迫られて「実印はどこにあるの?」。父との最後の会話は、金庫の暗証番号を尋ねることだった。父が紙に書いた番号を見たとき、貴子さんは、思わず泣いた。万一のときに思

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田 實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送「日曜はがんばらない」(毎週日曜10:00～)、ABCラジオ「osaka歴史ロマン」(毎週月曜18:35～)、月刊『清流』連載対談～ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。大阪で『ことば磨き塾』主宰。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』(近代文藝社)『ラジオが好き!』(海竜社)など。趣味、将棋(二段)。<http://murakaminobuo.com>

貴子さんは、社長に就任して半年後くらいに興味でバレーを始めた。これも父が引き合わせてくれたようなものだ。ストレスがたまつて、父とよく行った喫茶店に出かけてみたら、そこがバレー教室に変わっていた。直感でやつてみようと思った。バレーと出会って、社長という肩書き抜きの世界を見つけ、作業着姿とトウシューズ姿の切り替えも楽しく、とてもいい感じなんだそう。社長の時は「出来ない。わからない」とは言えないが、バレーでは先生から指導されることが新鮮だ。指導されたり叱られたりしていると、成長させたい、伸ばしたいという思いが伝わってくる。

来年は会社創業五〇周年。その抱負を聞いてみると、こんな答えが返ってきた。「毎年そうですが、今年より来年はもっと楽しくしたいと思っています。常に、今よりもっと楽しくしたいと考えています。私はなにがとも、自分が楽しめるか楽しいないかで判断しているんです。『楽しい』イコール『自分の成長』ととらえています」

「楽しい」イコール「自分の成長」

ダイヤ精機社長 諏訪貴子さん

幼い頃から取引先に連れていかれた。駐車場が遊び場だった。父の用事がすむまで、取引先の駐車場で遊んで待つていた。大学も「工学部に行きなさい」という父の言葉に従った。

大手自動車部品メーカーのエンジニアを経て、結婚。妻として、一人息子の母として、家庭を支えていたところ、父に請われて「ダイヤ精機」に2度入ったが、2度ともやめさせられた。「会社がよくなる方法を見つけてくれと父に言われたので、リストラ案を出したら二度ともクビになりました」と笑って話す。「父には社員に対する情があつて、リストラするなら身内からと思つたんでしょね。リストラの必要性はわかっていたはずですが、ほかの方法を私に探してほしかったのかもしれない」。

父が亡くなる二か月前に、また手伝つてほしいと言われたが、断つた。夫のアメリカ転勤も決まっていたので、帰国してから考えるつもりだった。だが、父が急逝して

いつけるよう、家族に関係のある番号だった。数字から、父の思いが伝わってきた。「父は、強いまなざしでじつと私の顔を見つめながら息を引き取ったんですが、その目に圧倒されて思わず、『会社は大丈夫だから』と言っていました。言葉はなくても、そのとき『頼むぞ』と言われた気がしたんです」。いまわの際に、言葉にはならない目と目の会話をした。

亡くなった父の顔は笑顔だった。「短くても悔いのない人生を送ったんだなと思えます」。



俳画／イネ・セイミ

「私がすごく悩んだときに、父が夢枕に立つて『ものづくりの終わりはないんだよ』と言ったんです。それがものづくりの基本でもあるんですね。うちの社員もすごいものを作っているのに『まだまだです』と言う。終わりがないものづくりだからこそ、おもしろさがあると思いました」。

若手社員の人材育成にも力を入れている。入社して二か月は、社長との交換日記を課している。彼らの性格をつかむのにも役立つし、彼らもあとで振り返ると日々の積み重ねによる成長を感じ、初めはこういうことがわからなかったんだと気づくことで、後輩の指導にも役立つはずだ。

「現場の声を聞いて応えようと、喜んでもらえるのがうれしい。みんなに、あなたの代わりはいない、オンリーワンだと言っています」。

「私自身も、自分より年上のベテランには娘のように、若手には母のような気持ちで接しています。それに、もともと世話好きですから、社員旅行やカラオケ大会で、コミュニケーションを密にとっていると、物がスムーズに進ぶことって多いんです」。



好評
発売中

■イネ・セイミプロフィール



フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

常滑屋
とき 月二回 第二・第四金曜日
午後一時～三時
会費 一回 二、二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九(三三)〇四七〇



インディアンフルート教室
開講しました。
誰でもすぐに吹けます
入会受付中!!
何か始めたいと
思っている貴女へ、
数年後、素敵に
フルートを奏でる姿が
そこにあります。
楽しく個人レッスン
致します。

講師 イネ・セイミ
(フルート奏者 指導歴30年)
1レッスン・1時間5,000円(ティータイム付)
申込み 0569-89-7127
お問合せ seimine@oasis.ocn.ne.jp

慈愛の人・良寛

(95) 杉本武之

良寛と宮沢賢治(その16)

宮沢賢治は、大正15年(1926)3月31日に花巻農学校を依願退職しました。4年4カ月の教職生活でした。そして、4月1日から、実家を出て、郊外の別宅で独居し、自炊をしながら農耕に励む生活を始めました。その時、賢治は30歳でした。

◎農民生活へ

賢治は、教師を辞めて百姓になろうという気持ちをかかなり前から抱いていました。前年の6月25日に、盛岡高等農林学校時代の親友・保阪嘉内に宛てて手紙を書きました。賢治があまりにも執念深く国柱会に入会するように勧誘したので、保阪の心は賢治から完全に離れてしまっていました。保阪へ出した賢治の最後の手紙です。

「お手紙ありがとうございます。来春は、わたしも教師をやめて、本当の百姓になつて働きます。いろいろな辛酸の中から、蔬菜の穂や白楊の閃きや何かを予期します。わたしも盛岡の頃とは随分変わつています。あの頃は、すきとおる冷たい水晶のような水の流ればかり考えていましたのに、今は苗代や草の生えた堰のうすら濁つた温かなたぐさんの微生物の楽しく流れる、そんな水に足を浸したり腕を浸して水口を繕つたりすることを願います。お目にかかりたいのですが、お互い、もう容易なことではなりました。童話の本、差し上げましたでしょうか」

この指とまれ

(206) 氏原朝信

「貧しかったために子守の仕事をし、仕事がないときに小学校に行く」と自分の席がなくて悔しい思いをした」と明治生まれの母は、よく言っていました。だからこそ、子どもたちには勉強させたい思いが強かったようですが、決して今でいう教育ママではなかったと思います。いろいろの母親がいて個性たっぷりの子どもたちがいるからこそ、楽しく集団生活ができるのだと思います。

私のお母さん

M・N女
私のお母さんは、いつも夕食は同じような物ばかり作る。たまに私が「料理の本でも見て作りや」と言ってもだめ。図書館で料理の本を借りてきても、目を通して「作ってね」と言うのと二日ぐらいいしてから作って

も教師をやめて、本当の百姓になつて働きます。いろいろな辛酸の中から、蔬菜の穂や白楊の閃きや何かを予期します。わたしも盛岡の頃とは随分変わつています。あの頃は、すきとおる冷たい水晶のような水の流ればかり考えていましたのに、今は苗代や草の生えた堰のうすら濁つた温かなたぐさんの微生物の楽しく流れる、そんな水に足を浸したり腕を浸して水口を繕つたりすることを願います。お目にかかりたいのですが、お互い、もう容易なことではなりました。童話の本、差し上げましたでしょうか」



退職前の賢治

めて、もう本当の百姓になります。そして、小さな農民劇団を利害なしに創つたらしいと思うのです」
教え子の一人・富手一は、こう述べています。
「先生は、私たちにいつ

直れない、よくならない、と先生は思われていたのです。そういう自分が俸給生活者である矛盾から、おれも百姓になるから、お前らもなつてくれ、という強い態度を示されたのだと思

退職前の賢治

ます」

◎「農民芸術概論綱要」

さて、教師を辞めて百姓になった賢治は、6月頃に農民の生活を向上させるために新しい農民芸術を創造することを提唱します。有

い。世界がぜんたい幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない。

「序論 … われらは一緒にこれから何を論ずるか… おれたちは、みな農民である。ずいぶん忙しく仕事もつらい。

もつと明るく生き生きと生活をする道を見つけた。われらの師父たちの中には、そういう人も往々あった。

近代科学の実証と求道者たちの実験とわれらの直観の一致において論じた

に置換され、しかも、科学は冷たく暗い。

「農民芸術の興隆 … 何故われらの芸術がいま起こらねばならないか… かつて、われらの師父たちは、乏しいながらもかなり楽しく生きていた。

今、われらには、ただ労働が、生存があるばかりである。宗教は、疲れて、近代科学

か、「農民芸術の批評(正しい評価や鑑賞は、まずいかにしてなされるか)」「農民芸術の総合(おお、朋だちよ、一緒に正しい力を合わせ、われらのすべての田園とわれらのすべての生活を、一つの巨きな第四次元の芸術に創りあげようではないか)」と続き、最後に「結論が来ます。

「結論 … われらに要するものは、銀河を包む透明な意志、巨きな力と熱である… われらの前途は、輝きながら険峻である。

「結語 … われらに要するものは、銀河を包む透明な意志、巨きな力と熱である… われらの前途は、輝きながら険峻である。

「結語 … われらに要するものは、銀河を包む透明な意志、巨きな力と熱である… われらの前途は、輝きながら険峻である。

「結語 … われらに要するものは、銀河を包む透明な意志、巨きな力と熱である… われらの前途は、輝きながら険峻である。

か、「農民芸術の批評(正しい評価や鑑賞は、まずいかにしてなされるか)」「農民芸術の総合(おお、朋だちよ、一緒に正しい力を合わせ、われらのすべての田園とわれらのすべての生活を、一つの巨きな第四次元の芸術に創りあげようではないか)」と続き、最後に「結論が来ます。

「結論 … われらに要するものは、銀河を包む透明な意志、巨きな力と熱である… われらの前途は、輝きながら険峻である。

「結語 … われらに要するものは、銀河を包む透明な意志、巨きな力と熱である… われらの前途は、輝きながら険峻である。

「結語 … われらに要するものは、銀河を包む透明な意志、巨きな力と熱である… われらの前途は、輝きながら険峻である。

「結語 … われらに要するものは、銀河を包む透明な意志、巨きな力と熱である… われらの前途は、輝きながら険峻である。

を越えて、銀河系をも意識して、正しく強く生きて行くことが大切だ」と強く主張しています。前途は険峻であるが、苦痛をも享樂して、「銀河を包む透明な意志」と大きな力と熱を失わずに前進しよう」と訴えています。

この「農民芸術概論綱要」のすぐれた内容解説書として、斎藤文一の『宮沢賢治の空中散歩』があります。お勧めの一冊です。著者の斎藤文一は超高層物理学・オーロラ研究などを専攻した理学博士で、花巻の「宮沢賢治イーハトーブ館」の館長を務めた人です。興味のある方は、図書館で探して、読んでみてください。



〈杉本武之プロフィール〉1939年 碧南市に生まれる。

京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。趣味、読書と競馬。

料理研究家

長澤晶子のSPEED★COOKING!

ふんわり! 武豊あんぱん

GW、ゆつたりとパンを焼いてみましょう!
武豊みぞ蔵の塩こうじをつかい、ふんわり焼きます!!

材料

〈あんぱん 8個分〉

強力粉……………160g

インスタントドライーイースト……………小さじ1

砂糖……………大さじ1

塩こうじ……………小さじ3

サラダ油……………大さじ1

豆乳……………100cc(人肌にあたためる)

粒あん……………140g(あんを8個にまるめる)

作り方

①④をボウルに入れ⑥を加えよく混ぜる。ひとかたまりになり、イーストの粒々が見えなくなるまでよく混ぜこねる。

②①に③を加えさらによくこねる。表面がなめらかになり膜がはるくらいしっかりとってきたら、丸く整えて温かいところに置き約2倍になるまで待つ(30～40分くらいかかる)

③②をボウルからまな板にとり出し、8個に切り分ける。それぞれをまるめる。

④形をつくる。

⑤④のとじ目を下にしてオープン皿にシートを敷いてのせ、温かい所で発酵。パンの表面が乾燥しないようにぬれ布巾をのせてもよい。

⑥⑤がふんわりふくらんだら180～190℃で10～12分焼く。

材料

〈あんぱん 8個分〉

強力粉……………160g

インスタントドライーイースト……………小さじ1

砂糖……………大さじ1

塩こうじ……………小さじ3

サラダ油……………大さじ1

豆乳……………100cc(人肌にあたためる)

粒あん……………140g(あんを8個にまるめる)

作り方

①④をボウルに入れ⑥を加えよく混ぜる。ひとかたまりになり、イーストの粒々が見えなくなるまでよく混ぜこねる。

②①に③を加えさらによくこねる。表面がなめらかになり膜がはるくらいしっかりとってきたら、丸く整えて温かいところに置き約2倍になるまで待つ(30～40分くらいかかる)

③②をボウルからまな板にとり出し、8個に切り分ける。それぞれをまるめる。

④形をつくる。

⑤④のとじ目を下にしてオープン皿にシートを敷いてのせ、温かい所で発酵。パンの表面が乾燥しないようにぬれ布巾をのせてもよい。

⑥⑤がふんわりふくらんだら180～190℃で10～12分焼く。

常滑市民文化会館

第五十八回 常滑市美術展覧会

十九日(日)開会 午後七時上・同時

入場 関係者(ポル・舞台) 問合

常滑市教育委員会 生涯学習ス

ポーツ課 43-5111

平成二十五年度 常滑市戦没者合同慰霊祭及び遺族大会(二十三日(木)開場 午前九時五分 開会 同時(正午) 入場 関係者 問合 常滑市社会福祉協議会 34-0108(福村)

常滑市文化協会 邦楽のつどい

二十日(月)開場 午前十時半 開演 同時(午後四時 入場無料 問合 常滑市文化協会事務局 35-2920)

綾小路きみまろ爆笑スパーライブ

二十日(月)開場 午後一時 開演 同時(三時 入場料 S 席 五五百円 A 席五千円 問合 鶴岡興業株式会社 35-2221)

常滑市立図書館

あじき展覧会 六日月曜

あじき展覧会 八日(水)十七日(金)

常滑市民文化会館

第五十八回 常滑市美術展覧会

十九日(日)開会 午後七時上・同時

入場 関係者(ポル・舞台) 問合

常滑市教育委員会 生涯学習ス

ポーツ課 43-5111

平成二十五年度 常滑市戦没者合同慰霊祭及び遺族大会(二十三日(木)開場 午前九時五分 開会 同時(正午) 入場 関係者 問合 常滑市社会福祉協議会 34-0108(福村)

常滑市文化協会 邦楽のつどい

二十日(月)開場 午前十時半 開演 同時(午後四時 入場無料 問合 常滑市文化協会事務局 35-2920)

綾小路きみまろ爆笑スパーライブ

二十日(月)開場 午後一時 開演 同時(三時 入場料 S 席 五五百円 A 席五千円 問合 鶴岡興業株式会社 35-2221)

常滑市立図書館

あじき展覧会 六日月曜

あじき展覧会 八日(水)十七日(金)

常滑市民文化会館

第五十八回 常滑市美術展覧会

十九日(日)開会 午後七時上・同時

入場 関係者(ポル・舞台) 問合

常滑市教育委員会 生涯学習ス

ポーツ課 43-5111

平成二十五年度 常滑市戦没者合同慰霊祭及び遺族大会(二十三日(木)開場 午前九時五分 開会 同時(正午) 入場 関係者 問合 常滑市社会福祉協議会 34-0108(福村)

常滑市文化協会 邦楽のつどい

二十日(月)開場 午前十時半 開演 同時(午後四時 入場無料 問合 常滑市文化協会事務局 35-2920)

綾小路きみまろ爆笑スパーライブ

二十日(月)開場 午後一時 開演 同時(三時 入場料 S 席 五五百円 A 席五千円 問合 鶴岡興業株式会社 35-2221)

常滑市立図書館

あじき展覧会 六日月曜

あじき展覧会 八日(水)十七日(金)

史に触れつ入門編から学ばず。はじめての方にわかりやすく会話を中心にゆつと楽しく進みます。講師 俣丹さくら(俣丹中国語学院学長、知多市民館学芸室長) 対象 市内在住の勤労の一定員、一人名定員を超えた場合は抽選。受講料 無料(テキスト代のみ五百円) 持ち物 筆記用具、申込みポーツ課 43-5111

申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011 申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011 申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011

申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011 申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011

申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011 申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011

大極拳講座 十七日(二十四日) 三十一日(六日) 毎週金曜日(全四回) 午後七時 同時 内容 初心者向けの太極拳講座 講師 杉江清孝さん(NPO太極拳養心会) 場所 市内在住の勤労の一定員、一人名定員を超えた場合は抽選。受講料 無料(持ち物 筆記用具、申込みポーツ課 43-5111)

申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011 申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011

申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011 申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011

申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011 申込み 生涯学習ス 18011 中央公民館 35-6311 FAX 43-8011

誠意をこめて安心のお手払い

年中無休・24時間体制

(有)大阪屋葬祭

常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール

TEL<0569>35-4949(代表)

FAX 35-4911

知多の新鮮たまご

発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380

TEL0569-73-6341

(5ページへ続く)

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (25) 岡田 清治

不倫

天野は残業を命じられ、ほとんどの社員が退社した時間にも課長から渡された資料に目を通してながら「前島課長はどうされているのだろう」と考えていた。自宅に帰ったら事情がわかってくれるだろうと安心する気持ちもあったのだった。

「いや、待たせてしまったな」

「腹もすいたから食事に行こう。そこでゆっくりこれからのことを教えるよ」

「はい」

天野はついて行くしかないと思った。

二人はタクシーを拾って銀座のレストランに向かった。銀座・和光ビルの前で降りて中央通り角から晴海通り南二筋目を入ったところのビルの前に出た。外からは看板が小さくわかりにくい、感じのいいレストランが二階にあった。すでに席はほぼ埋まっていたが、二人は用意された窓側の席についた。

「フランス料理だが、いいかな」

「はい」

「営業本部は半導体だけでなく周辺の電子部品のほか、医療機器なども手掛けている。今後、半導体の営業は縮小に向かわざるを得ない。そこで新たな成長分野を切り拓くと同時に半導体以外の電子部品の強化を図らなければならない」と、課長は席に着くや開口一番、仕事の話を切り出した。

「それで私の仕事は何をするのですか」

天野も自分の仕事内容を確認したいと思っていた。

「営業の各課、あるいは個人から求められる資料を集めたり、役員会に報告する営業報告書を課長の指示でまとめてもらうことになる」

「かなり幅広い内容ですね」

「はじめからうまくできないだろうから、課の先輩に指導を受けながら取り組んでもらいたい」

「ところで半導体の将来はどうなるのですか」

二人はワインを飲みながら料理を口に運んだ。ワインが心地よく酔いを誘う。

「知っていると思うが、半導体部門はN社の同じ部門と統合して新会社になる。営業についてどうなるかはわからないが、いずれにしても当社の半導体製造部門がなくなるということだ」

「営業だけ残るということは考えにくいですね」

「確かに生産部門だけを合体しても大きなメリットが期待できないとみれば、全て新会社に移行するということになる」

「従業員は全員、新会社に移れるのですか」

「恐らく、それぞれの会社が身軽にしてから統合されるだろう」

「そうすると、そのうちリストラが始まるということですか」

「少なくとも営業本部の多くはそう見ているね」

「私も対象になるのでしょうか」

「たぶん、年齢の高い人から声をかけられることになるだろう」

「優秀な人から先に手を挙げるのではないですか」

「その点が希望退職者を募る場合、難しい問題だと思うよ」

天野は課長の話を聞きながら自分の身の振り方を考えていた。

「こんな暗い話はやめて、気晴らしにカラオケに行こう」
天野の都合など聞かない。とにかく強引だがどこか頼もしくも感じる。「はい」

課長の決まりのコースなのか、カラオケ店に向かって早足で歩く。二人は店を出て数分で近くのカラオケ店に入った。そこは個室でな

くテーブルごとにお客がいて歌いたい曲名を登録しておいて、曲がかかる舞台上立つてマイクを握る。かなり豪華な店ということが、部屋の装飾、調度品を見てもわかった。まん中のフロアーではダンスができる。部屋全体が薄暗い照明でダンスのフロアーはLED製のブルーのミラーボールが回転しているだけだからほとんど顔の判別はできない。すでに数組のベアアが踊っていた。

課長はテーブルに案内されると、ワインを注文した。



タヒチの海岸(著者撮影)

二人はダンスをし、課長は十八番という新しい曲を披露した。

「そろそろ帰ろうか」

天野一人をタクシーに乗せると、課長は一人でクラブに移動した。

天野は誘われることはなかったのだけれどとする反面、一抹の寂しさも感じた。

前島は日曜の朝まで眠った。朝食もそこそこに「ちよっと出かける」と言って家を出た。すぐに携帯を取り出して天野を呼び出した。

「天野ですが、前島課長さんですか。おはようございます」

「なぜ、自宅の留守テルに電話をしたのだ」

前島は開口一番、挨拶もせずに問い正した。

「それは、研究所にもおられないし、携帯に何度もかけましたが、通じなかったからです」

「ホテルに伝言を頼んだら良かったのに」

「と言おうとして止めた。かえってホテル側が困惑して誤解を与えかねなかったからだ」

「そうか。今から会えるか」

「どこですか」

「そうだな、新宿南口の花屋の前で十時にどうだろう」

「わかりました」

前島は新宿なら人も多いから会社の人間に見られることもないだろうと考えた。ところが偶然ということはある。二人が花屋の前で会っているところを、こともあろうに研究所の開発二課の庶務の女性に見られていた。彼女とは時々、研究所近くのコーヒー店で話したことがある。

彼女は遠くから二人を見た後、声をかけることもなく立ち去った。後日、例のネットワークで尾切れ背びれをつけて社内を駆け巡ることになる。

ふたりは気付かないまま駅近くのホテルの喫茶ルームに入った。

「すまなかった。あの日、携帯を家に忘れてしまった」

「それで留守テルにいったことで、ご迷惑をかけました？」

「実は、天野さんも聞かないから言いそびれていたが、俺、結婚しているのだ」

「本当ですか」

天野は前島を凝視しながら絶句した。確かに結婚していてもおかしくない年齢であった。ただホテルに泊まりたいとつぶやいた時、いとも簡単に承諾の返事をしたので、自分勝手に前島は結婚していない、独身だと思い込んでいた。今から思うと、独身であってほしいという願望だったかもしれない。

「てっきり、前島さんは独身とばかり思っていました」

「結婚はしているが、家庭内別居のようなものだよ」

「どういうことですか」

「女房とは長い間、夫婦生活もない。ただ同じ部屋でそれぞれが仕事をもちて生活しているだけだった。だから離婚は時間の問題だと思っていた。離婚したら天野さんと結婚しようと考えていたのです」

「そうですか」

「子どもが生まれたら女房は会社を辞め、専業主婦になることを期待していた。ところがもう三年近くになるのにその兆候がない。そのうち夫婦生活もしないような毎日を送っていた」

「それで今回の留守テルを奥様に聞かれたのですね」

「そうだ。昨日、天野さんのことを話した」

「で、奥様はなんと言われたのですか」

「しばらく考えさせてほしいということだった」

「…」

「天野さんは離婚したら俺と結婚してくれるかい」

「そんな急に言われても…」

「それはそうだな。失敬」

「金曜日の夕方、残業を言われ、そのあと課長さんから夕食を食べながら仕事の話を聞きました。営業庶務で資料の整理をしてもらうということでした」

「そうか」

「私は新聞でN社と統合するニュースを見た時から、この会社にはいつまでもおられないと思っていたいました」

「それで」

「以前から興味をもっていました外資系の電子部品の会社が中途入社を募集をしていることを知りました。それで今日午後二時から面接があります」

「受ければ会社を辞めるのか」

「はい」

「寂しくなるな」

「営業本部ではリストラの話で持ちつくりのようです。課長さんが言うには、希望退職は表向き、とくに労組に対して表明しているの実際は肩たたきが行われるだろうということでした」

「そういうことだろうな」

「新人社員は対象にならないだろうということでしたが、半導体部門を分離した会社の魅力は半減します」

「そうだろうな」

「前島さんはどう考えておられるのですか」

「俺も肩たたきは時間の問題だろうと思っている」

「それでは会社をお辞めになるの」

「通常の状態なら競業禁止義務があつて、競合メーカーには就業規則に引つかつて移れない。だが、今回のように別会社になってリストラされる場合は別だと思う。だけど半導体の不振はなにも当社のことだけでなく、日本全体の問題だから他に移りようもないのが現実だ」

「では多くの人が路頭に迷いますね」

「会社は就職斡旋もすると言っだろうが、そんなの期待できない」

「ではどうされるのですか」

「できるだけ残党組になろうと思っている。中途採用で行くとしても不利になる。よほどスキルがない限り、結局は使い捨てになるのがオチだと思う」

「日本の企業では中途入社はどうしても色メガネで見られますよね。私のように一年に満たない場合でもレッテルを張られると思います。だから再就職は外資と決めています。外資企業は実力だけを評価してもらえると思っています」

「そうかも知れないが、仕事は厳しいと思うよ」

「そうでしょうね。だけど日本企業のようにある種、ムラ社会、あるいは派閥内においてめるま湯に浸かっているよりはいいのではないかと…」

「割り切っているな」

「前島は面接に行く天野を見送った後、ひとり残って将来のことを思案した。

「恵美とは円満に離婚できても、手元に残る退職金は当てにはできない。リストラの対象になつても、できるだけ残れるようにしようと思う反面、どうしても辞めなければならなくなつたら会計士か中小企業診断士の資格を取ってコンサル業として独立しようと思案と考えた。そのためには今から勉強しなければならまいと…」



プロフィール

著者：岡田 清治 おかだ せいじ
一九四二年生まれ ジャーナリスト
(編集プロダクション・NET108代表)
著書に『高野山開創千二百年 いっぱんさん行状記』『心の遺言』『あなたは社員の全能を引き出せますか』『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX：0569-34-7971
メール：takamitsu@akai-shinbun.net

ある飼い主の誓い

石川 春美

今朝も近所迷惑を省みず「ワンワン」と大声で吠えだす。夫は布団から抜け出して、リードを手に散歩の支度に入ります。

『私の犬嫌いは親譲り、いや先祖伝来だったので我家では犬を飼ったことがなかった。どんな小さな犬も触ることさえ出来なかった。訪問先の玄関ドアを開けただけなのに、室内犬が奥から飛び出して来て噛まれたことがあった。犬嫌いな人間が分かるらしい。犬嫌いというより、噛みつきそうな犬が恐かっただけなのに。』

そんな我家に犬がやってきました。十三年前の冬でした。突然、夫の友人が訪ねて来て「頼まれていたので連れてきた」と子犬を手渡しました。私に内緒で「子犬が生まれたら欲しい」と大好きな友人に頼んでいたらしいのです。夫は結婚して私と私の両親と同居し始めました。子供の頃に育った家では当たり前のように犬を飼っていました。私の反対で実現しなかった、犬との同居の始まりです。

熱烈な中日ドラゴンズファンの夫がリュウと名付けました。今では室内で犬を飼うのは普通になっていますが、当時の我家では考えられません。必然的に、裏口の屋外に繋がれました。ダンボール箱の中に毛布を入れて飼い始めました。慣れない所に連れてこられたのか、箱の中でプルプル震えていました。

子犬時代は無邪気な赤ちゃんのように、何をしても愛らしい。リュウとの生活が始まるやいなや、私は犬大好き人間に豹変しました。あんなに恐がっていたのが、自分でも信じられない変わりようでした。犬の口に入ることもさえ平気になりました。夫からは「こんなことなら、もっと早くから飼えばよかった」と嘆かれました。一年後の元旦、自宅玄関前にて六人と一匹で写

■石川春美プロフィール
1955年2月19日 西尾市一色町生まれ
父の代からのウナギ養殖を家族経営
〈趣味〉太極拳、読書、旅行
2003年に父介護のため、ヘルパー2級取得
2007年から主任児童委員、現在2期目
家族新聞【石川】を平成4年4月から月1回発行
：現在まで252号

真を撮りました。すっかり家族の一員として納まっています。この年の三月に脳出血で倒れた父とは最後の家族写真となりました。二人の息子たちが育つ時に犬を飼わなかったことが、残念でなりません。もの言わぬ生き物の世話は大変ですが、得難い経験と喜びを与えてくれると知りました。

可愛い子犬時代は、またたく間に過ぎ去りました。数年後、様々なトラブルが持ち上がりました。犬を飼った経験が無い我家は、しつけを怠ったのです。しつけの程度が分からないので、甘やかしてしまいました。時々テレビで取り上げられるダメ犬そのものです。無駄に吠えまくり、散歩中には他の犬に飛び掛かりケンカになりました。毎年の予防接種にも、夫婦で連れて行かないと抑えられません。体重が二十キロを超えると、私が犬に引きずられて散歩するようになってしまいました。「生後一年以内にしつけないと大変なことになる」：友人の忠告を思い出したのはダメ犬になってから。何とか、しつけし直そうとしましたが後の祭りです。リュウが悪いのではなく、ダメ飼い主だったのです。

それでも雑種のためかどうかは分かりませんが、丈夫な犬である事が何より良いと思えるのです。

七年前、体の不調を訴えた夫が病院で検査をした結果は糖尿病でした。血縁関係に糖尿病は誰もいなかったの、思いもありませんでした。生活習慣が最大原因なので、入院治療後は食事と運動が基本となりました。そこで食事後の散歩にリュウが付き合うことになりました。体調が回復したのはリュウがいてくれたからと言っても過言ではありません。

三度の食事後に一時間の散歩に付き合ったのです。ますます元気な犬になり、足腰は遅しく、首回りも頑丈になりました。

ある夏の猛暑の日、自宅から遠く離れた場所で仕事をしているとフラフラ歩いてくる犬が見えま

した。「野良犬だろうか」と思っていると、やって来たのは我家の犬でした。急いで首輪を捕まえ、軽トラックの荷台に乗せて自宅へと連れて帰りました。繋いでいた頑丈な鎖が途中で切れていたのです。少しさび始めていましたが、切れるとは思いませんでした。出荷の仕事をしていたウナギ養殖池までは散歩コースになっているので、私たちを探して歩いてきたのでしょうか。炎天下を歩いてきた犬の体調を少し心配しましたが、途中で誰かに危害を加えた様子がなかったことに安堵したのです。

少しは番犬を期待して裏口に繋いだのですが、思い違いの面がありました。「家の中に家族が居ると吠えるが、誰も居ないと吠えない」と教えてくれる人がありました。留守の時こそ怪しい人に吠えて欲しいと願っていましたが、家族に教えるように吠えるのです。案外、気が小さいかもしれません。しかし、番犬の役目はキチンと果たしていると思いがたります。

数年前から隣近所で昼間の空き巣や夜間の泥棒が頻発し始めました。私の子供時代には昼も夜も家の鍵を掛けたことがありません。そんな時代は過ぎ去り、少しの外出も戸締りが必要になりました。町内の回覧板でも度々、泥棒注意と回ります。夜間に泥棒に入られた数軒先の親戚は「深夜に階下で物音がしたが、恐ろしくて降りていけなかった」。夕方帰ってくると空き巣被害にあっていた隣家からは「土足の靴跡が三人分あり、家中が荒らされていた」など、近くで起こった生々しい話を直接聞かれました。ところが、犬を飼っている家からは被害の話が、ほとんど聞こえてきません。番犬がいるお陰と確信しています。

近頃では朝夕の散歩時間も、めっきり少なくなりました。五月で還暦を迎える夫には、少し体力の衰えが見え始めたリュウとの散歩が丁度良くなりました。用心のためにセンサー式ライトを玄関先に設置しましたが、裏口には雄の中型犬がいるだけで防犯になっています。しつけが足りずに無駄吠えが多いのは直りませんが、番犬としては大いに期待している我家です。

仕事や両親の介護に疲れた時は、頼りになるセラピー犬にもなりました。終わりに私の誓いを書き留めます。

“老犬の介護も最期看取るまで”

わが家のニューフェイス



伊藤隼輝(1才7ヶ月) 半田市岩滑東町

写真・文
伊藤 祥代

歌に合わせ踊ることを好
かだよ。今では、ママの言うこと
が分かるからお手伝いもするんだ。
これからたくさんおしゃべりがで
きるように、頑張っ言葉覚え



こんちわ。1歳7ヶ月です。大好きなご飯を毎日食べて、月です。毎日楽しいよ。歌に合わせ踊ることを好

愛とMy Family



堀井心愛(4才) 悠助(1才3ヶ月) 常滑市阿野町

写真・文
堀井 歩

の赤あさんだ。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、みんな大好き。毎日、お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さんと一緒に遊ぶのが大好き。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、みんな大好き。毎日、お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さんと一緒に遊ぶのが大好き。



名前：心愛、悠助
年齢：4才、1才3ヶ月
家族：お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん
趣味：遊ぶこと、お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さんと一緒に遊ぶこと

夢中になっていること

ママごと
+ ダンス



鬼頭 愛奈 (4才)

おもいで



「これ、いいよね。」

サッカー
に挑戦



誠意と真心で…あんしんのかげはし

葬儀のすべてをお引き受け致します

24時間体制完備



CSK葬祭



0120-33-5909

常滑市 あいち知多農協・冠婚葬祭友の会指定特約店

青海
瑞雲殿

TEL.0569-44-2234 (直通)

常滑市青海町1丁目1番地(国道155号線沿い)

100台駐車可能の大駐車場完備



常滑
瑞雲殿
[本社]

TEL.0569-35-2785 (代表)

常滑市北条1丁目34番地

200台駐車可能の大駐車場完備

